

● ● ● ● ● 質の高い授業を創る ● ● ● ● ●

教育庁指導部 義務教育指導課長 中嶋 富美代

新学習指導要領の全面実施まで、いよいよ小学校ではあと1か月、中学校ではあと1年となりました。既に各学校では、これまでの移行措置期間に新たな教育課程の実施に向けた準備を進めてきていることと思いますが、全面実施を目前に控えた今、改めて確認していただきたいのが、新学習指導要領の理念です。次代を担う子供たちに、何を目的としてどのような教育を進めていくのか、そのためにどのような授業改善が求められているのか等を、全ての先生方に再確認していただきたいと思います。

新学習指導要領では、新しい時代に必要となる資質・能力の育成として、子供たちに「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養^{かん}」、「生きて働く知識・技能の習得」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」を図ることが求められています。そのために、「社会に開かれた教育課程」としての学校におけるカリキュラム・マネジメントの実現、主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善等が位置付けられています。そして、この理念の実現のためには、各学校の組織的な取組による一人一人の先生方の授業改善が必要不可欠となります。是非、資質・能力の三つの柱で再整理された各教科等の目標及び内容を確認するとともに、児童・生徒の主体的な学びを十分に保証しているか、自分の考えを他者との対話によって広げ深めるような単元構成がなされているか、各教科等の見方・考え方を働かせながら知識を相互に関連付けてより深く理解するといった学習活動を行っているか等、日々の授業を振り返り、子供たちの未来のために、より一層、質の高い授業を創っていただきたいと思います。

義務教育指導課でも、新学習指導要領に基づいた指導資料や「東京ベーシック・ドリル」を作成・配布するなど、先生方の授業改善をしっかりと支えてまいりますので、引き続き、御理解、御協力をよろしくお願いいたします。

掲載内容

- 巻頭言「質の高い授業を創る」
- 調査問題を生かした組織的な授業改善 —— 調査問題を活用した校内ミニ研修のすすめ
- 「東京ベーシック・ドリル」が新しくなります！
- リーフレット「お子さんの学力向上のために必要なこと」
- 令和2年度学力調査の実施について

東京都教育委員会のホームページ「学校教育」内の「指導資料・報告書等」のページには、各学校が指導内容や指導方法等の工夫を通して、授業の改善・充実を図るための諸資料を掲載しており、メール・マガジン「スクラム」のバックナンバーも、こちらに掲載しています。

是非、御覧いただき、参考にいただければと思います。

（東京都教育委員会ホームページアドレス <http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/>）



★ 本メール・マガジンの配信を希望する方は、件名に「メール・マガジン配信希望」、本文に所属・氏名を御入力いただき、S9000024@section.metro.tokyo.jp へメールを御送信ください。

★ 東京都教育委員会の取組に関わる先進情報等については、こちらも御覧ください。



東京都教育委員会の公式アカウント
(@tocho_kyoiku)

調査問題を生かした組織的な授業改善

— 調査問題を活用した校内ミニ研修のすすめ —

● 調査問題の分析について

「全国学力・学習状況調査」及び「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の具体的な調査問題は、国際的な学力調査の考え方やこれまでの調査結果及び課題等も考慮しつつ、小・中学校学習指導要領に示された実施教科の目標及び内容等に基づいて作成されています。個々の調査問題について分析するとともに、自校の児童・生徒の誤答の状況を詳しく分析することが、授業改善を進めていく上で重要です。

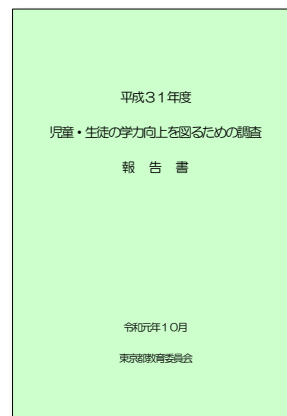
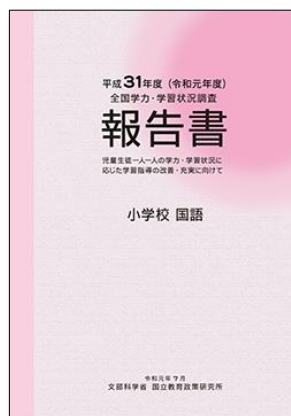
調査問題にはそれぞれ出題の意図があり、授業改善に向けたメッセージが込められています。まずは、調査問題を教師自身が解いてみることで、児童・生徒がどのように思考・判断・表現するのか、児童・生徒にどのような力が必要なのか、実感することが大切です。その上で、自分や自校の授業実践を振り返る機会にしておくことが重要です。その際、これまでの授業実践の何が成果に結び付いていたのかということ进行分析し、成果を共有した上で、授業改善推進プランの作成・実施・検証・改善に生かしてください。

● 具体的な実践の提案

具体的な方策として、「全国学力・学習状況調査」や「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の実施後、下の【例】に示すような校内ミニ研修を行うことを提案します。この研修は15分程度の時間で行うことが可能です。校内研究全体会や職員会議など、先生方が一同に会する機会（学年会やOJT研修など）を活用し、調査を実施する学年を担当している先生だけではなく、是非、全校の先生方で取り組んでいただきたいと思います。また、「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、調査結果の個人票と

ともに「間違えてしまったときの復習のポイント」を配布することで、調査結果を児童・生徒が自らの学びに生かすことができます。一部の問題については、間違えたときに立ち戻るべき具体的な練習問題として、「東京ベーシック・ドリル」の問題番号を示すことで、「できる」、「分かる」まで繰り返し学習することができるようにしています。

調査問題の分析や、児童・生徒のつまづきを知ることを通して、組織的な授業改善を実現していきましょう。



〔活用できる参考資料の例〕

【例】 授業改善のための校内ミニ研修

- 1 自校の実態や状況に応じて、調査問題を1問選んで挑戦してみましょう（5分間）。
- 2 選んだ調査問題は、どのような力を見るための問題かを考え、話し合ってみましょう。その際、当該教科の学習指導要領解説を読んで確認しましょう（5分間）。
- 3 「報告書」を読み、2を確認した上で、授業改善について話し合ってみましょう（5分間）。

「東京ベーシック・ドリル」が新しくなります！

「東京ベーシック・ドリル」は、小学校第1学年から中学校第1学年までの国語、算数・数学、小学校第3・4学年の社会、理科、中学校第1学年の英語の基礎的な学習内容及び知識を身に付けるためのドリルです。

令和2年4月から全面実施（中学校は令和3年4月から全面実施）となる新学習指導要領に対応するため、ドリルの内容の一部を改訂しました。さらに、「東京ベーシック・ドリル」（電子版）の機能も拡張し、先生方や児童・生徒がより活用しやすいように改訂しました。ここでは、新しくなった「東京ベーシック・ドリル」及び同電子版の一部を紹介します。

改訂版「東京ベーシック・ドリル」は、令和2年3月中旬に各区市町村教育委員会へ配布します。また、インターネット版は、令和2年4月に東京都教育委員会のホームページで公開予定です。

ドリルの内容を一部改訂 <国語、算数・数学、理科>

<小学校国語の問題の改訂例>

<小学校理科の問題の改訂例>

<小学校算数の問題の改訂例>

<中学校数学の問題の改訂>

「東京ベーシック・ドリル」(電子版)の機能を拡張

「東京ベーシック・ドリル」(電子版)は、児童・生徒が学校のパソコンやタブレット端末等で使用したり、東京都教育委員会のホームページ上で使用したりすることができます。ここでは、インターネット版の機能について紹介します。

問題の形式

A1 2年 算数 一年 組 番 名前

1 つぎの数はいくつですか。
 ① 10を46こあつめた数
 ② 100を3こ、10を7こ、1を2こあわせた数
 ③ 100を80こあつめた数
 ④ 1000を10こあつめた数

4 計算をしましょう。
 ② 90-30
 ③ 137-55
 ④ 108-29

テスト

1 つぎの数はいくつですか。
 ① 10を46こあつめた数

入力欄



学年・教科・学習内容を選択すると、ドリルの問題が1問ずつ画面に表示されます。問題を順番に解く、問題一覧画面から問題を選択して取り組むなど、学習の進め方は様々です。

問題形式は、「テストモード」と「ドリルモード」の二つから選択します。「テストモード」は、学習内容のまとまりごとで問題に取り組み、採点を行う機能です。「ドリルモード」は、1問ずつ問題に取り組み、採点を行う機能です。学習の進め方や児童・生徒の学習状況に応じて使い分けることができます。

モード	学習の進め方
テスト	問①→問②→問③⇒採点(問①~問③)
ドリル	問①⇒採点(問①)→問②⇒採点(問②)→問③⇒採点(問③)

解答方法と採点

解答方法は、「キーボード入力」、「ボタン入力」、「手書き入力」等、問題によって様々な解答方法となっています。「キーボード入力」や「ボタン入力」で解答している場合は、自動採点されます。また、「手書き入力」で解答している場合は、「答え」を見ながら自己採点をします。

テスト

1 つぎの数はいくつですか。
 ① 10を46こあつめた数

460

キーボード入力

① ア イ

ボタン入力

テスト

1 次の図形の面積を求めましょう。
 ① (/ cm²)

手書き入力

自動採点

自己採点

テスト のこり 5もん

1 つぎの数はいくつですか。
 ① 10を46こあつめた数

460

1/11 いちらん

1 次の図形の面積を求めましょう。
 ① (1cm²)

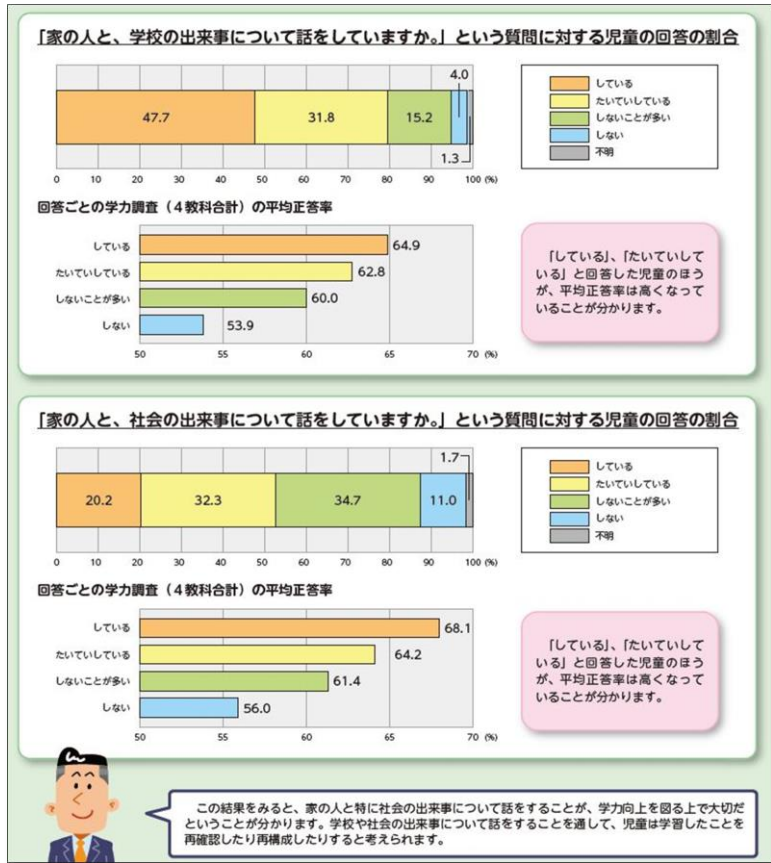
リーフレット「お子さんの学力向上のために必要なこと」

東京都教育委員会は、平成31年度（令和元年度）小学校第4学年保護者へ、今年度の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果に基づいたリーフレット「お子さんの学力向上のために必要なこと」を配布します。このリーフレットでは、各家庭における、児童の学習や生活についての取組を紹介しています。

■ 学力向上と関連の深いもの

児童の学力向上と関連の深いものとして、家の人と学校や社会の出来事について話をする大切さについて紹介しています。

児童質問紙調査の結果から、家の人と学校や社会の出来事について話をしている児童ほど、4教科（国語、社会、算数、理科）合計の平均正答率が高い傾向がみられることが分かりました。学校や社会の出来事について話を通して、児童は学習したことを再確認したり再構成したりすると考えられます。



■ 家庭で支援する取組例

児童の学習を家庭で支援する取組例を国語・社会・算数・理科の教科ごとに紹介しています。

社会では、都庁の所在地について話し合っている場面で、地図帳を使って調べたい場所と自分が住んでいる区市町村との位置関係について考えさせる場面を紹介しています。

家庭での取組例

東京オリンピック・パラリンピックの東京都内の聖火リレーは、東京都庁がゴールなんだって。ぼくも行ってみたいな。

それはいいわね。東京都庁はどこにあるの知っているかな。

学校で勉強したから知っているよ。東京都庁は新宿区にあるよ。

よく知っているね。じゃあ、新宿区はどこにあるのかな。地図帳を使って説明してくれるかな。

新宿区はここだよ。ぼくたちの家から見て右下にあるね。

右下という言い方でいいかな。方位を使って説明してごらん。

そうか。右下じゃなくて、南東だったね。

地図帳を活用して、調べたい場所と自分の区市町村の位置関係を捉えたり、方位を活用して説明したりすることを通して、位置や空間の広がりに着目することができるようになります。

■ 児童との会話を振り返る

「このようなとき、どのように言葉を掛けていますか」と、児童との会話を振り返る三つのポイントを紹介しています。

お子さんとの会話を振り返ってみましょう
～このようなとき、どのように言葉を掛けていますか～

お子さんが伝えたい内容をうまく言葉で表現できないとき

お子さんが伝えようとしていることを受け止め、「～ということは、○○だね。」「つまり、○○ということかな。」と要約したり、言い換えたりするなど、表現のヒントを示していますか。

お子さんの伝えようとする気持ちを大切にしながら、話の内容を要約したり、別の表現に言い換えたりするなどして、お子さんが自分の伝えたい内容にふさわしい表現を考えられるようにすることが大切です。

お子さんが取り組んでいることが、なかなかうまくいかないとき

お子さんの様子を見ながら、「どうしたらいいと思う。」「なぜうまくいかないのかな。」などと解決の見通しをもたせたり、それまでの取組を振り返らせたりしていますか。

保護者の方が、すぐに解決方法を示すのではなく、解決への見通しをもたせたり、うまくいかない原因を振り返らせたりするなどして、お子さんが自分で解決できるようにすることが大切です。

お子さんが理由などを述べずに、自分の考えだけを主張するとき

「どうしてそう考えたのかな。」「それは、どこから分かるのかな。」など、お子さんの考えたことについて、そのように考えた理由や根拠を確かめていますか。

保護者の方が納得できたとしても、他の人も同じように納得できるとは限りません。当たり前と思えることでも、理由や根拠を確認するなどして、お子さんが自分の考えを筋道立てて説明できるようにすることが大切です。



お子さんが、保護者の方に安心して自分の考えを伝えられるように、以下のようなことにも気を付けてみましょう。

- お子さんの顔を見て、会話をしていますか。
- うなずいたり、受け止めの言葉を発したりするなど、積極的に聞いている姿勢を示していますか。
- お子さんの話を、最初から否定しないで聞いていますか。
- お子さんの話を、最後までさえぎらずに聞いていますか。

リーフレットは、令和2年3月上旬に各区市町村教育委員会へ配布します。また、東京都教育委員会のホームページにも掲載予定です。必要に応じて、様々な機会に御活用ください。

令和2年度学力調査の実施について

全国学力・学習状況調査

- 【実施日】 令和2年4月16日（木）
- 【対象】 小学校第6学年児童
中学校第3学年生徒
- 【教科】 国語、算数・数学

児童・生徒の学力向上を図るための調査

- 【実施日】 令和2年7月2日（木）
- 【対象】 小学校第5学年児童
中学校第2学年生徒
- 【教科】 国語、社会、算数・数学、理科、
英語（中学校のみ）